



広島大学霞キャンパス学生支援室

結城 華さん(平成14年度入学)

地域科学プログラムで主に観光学を専攻

仕事内容

私は現在、試験会場の準備や志願者受付などの入試関係の仕事を担当しています。だから今が一番忙しい時期なんですよ(笑)(取材は受験シーズン真っ只中の二月中旬に行った。)普段は学生さんを様々な面でサポートしています。

その仕事を選んだ経緯ややりがい

私自身広島大学で学び、学生時代は様々な面で学校からサポートしてもらって、充実したキャンパスライフを送ることができました。夢だった海外留学にも挑戦することができました。学生の時に支えてもらい、楽しい思い出があるからこそ今度は私が学生さんの夢を応援したいと思いいこの仕事を選びました。

学生支援という仕事柄、学生さんと接する機会が非常に多いです。それも大きな魅力ですし、学生さんが些細なことでも「ありがとう」と言ってくれたりするととても嬉しく、やりがいを感じますね。

これからの展望

大学職員の仕事はとても幅広いです。だからこそ広い視野を持つている必要があります。様々な部署に異動するのですが、できる限り多くの仕事を経験して、各部署のプロになるといのが現在の目標です。

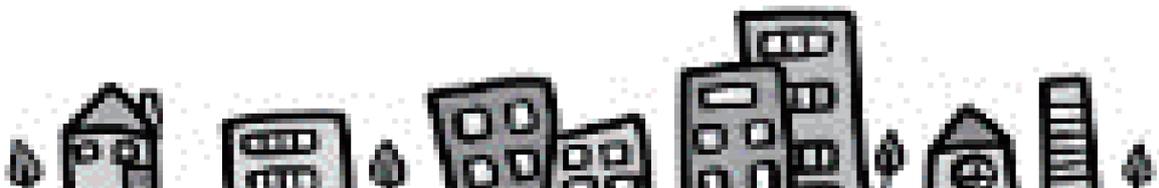
就職活動で苦労したこと

自分の本当にやりたいことが何なのか、それを真剣に深く考え、相手に上手にアピールすることが大変でした。

学生時代

学生の時は特に部活やサークルに所属していた訳でもなく、勉学やアルバイトに励んでいました。やはり初めての一人暮らしで親からの仕送りを受ける生活の中で、「勉強が第一」という意志があったので、しっかりと頑張ることができました。

印象に残っていることといえばやはり留学ですね。イギリスへ行ったのですが、行っただけは大変でした。英語は伝わらないし、聞き取れない。授業のノートをとるのも一苦



OB・OG 紹介

労でした。また向こうの学生はとても積極的で授業中もたくさん質問が飛び交うし、グループワークなどでも活発に自分の意見を述べていましたね。言葉やそういった気風に慣れるまではちよつと大変でした。

留学中にはイギリスだけでなく、ヨーロッパのいろいろな国を旅行しました。お金が無かったので、ユースホステルなどの格安宿舎を利用しました。相部屋も多かったのですが、女性限定の部屋に宿泊していたので特に怖いことはありませんでしたよ。この旅行を経て、臨機応変に行動することが重要だと改めて思いました。旅をしていると、訪れようと予定していた場所に突然行けなくなるのとが結構あるんです。そういうときに「じゃあこっちに行こう」って予定を変更する。そういう物事に対しての柔軟な態度が身に着いたんじゃないかと思えます。

社会人になって改めて分かったことですが、時間に余裕があるのはやっぱり大学生までなんです。社会に出て仕事をするようになると、時間がない。だからこそ学生さんには今しかない自由な時間を大切にしたいと思います。それこそ留学に行くというのも一つの手だと思います。今は留学を支える環境が昔より整っているから行きやすいと思います。留学に限らずとにかく何でもやってみましょう。自由に何でもやれるのは今しかないのですから。

【担当】 25生 島田 優太郎

25生 丸本 千枝

総科生に一言

